



<同志社人が母校を誇りに思える情報>

「同志社ファン・レポート」(通巻 281 号)

うえきともこ  
植木朝子新学長の横顔と志など

「One purpose」200 号掲載「新学長に聞く」を要約・文章化と加筆



2020 年 4 月 1 日に就任された植木朝子新学長の横顔と志などを  
「One purpose」200 号の「新学長に聞く」を元に要約・文章化と  
加筆をしたものです。原文もご確認下さい。  
文責：同志社ファンを増やす会・多田直彦

なお、就任については昨年 12 月 4 日に記者会見されました。  
毎日新聞では次のように報じていました。(写真あり)

<https://mainichi.jp/articles/20191211/ddl/k26/100/319000c>

なお、全文をご覧になるには、会員登録が必要です

**【生い立ち】**1967 年 3 月 19 日、大学で哲学を研究する父と日本の古典文学を学んでいた母との間に生まれた。53 歳。その環境も影響して文学の世界に。観劇や映画も好きで、演劇は能や歌舞伎から前衛劇まで鑑賞。宝塚歌劇のファンで観劇案内も書いている。映画では、特に印象深い作品としてイランの映画監督アッバス・キアロスタミの『友だちのうちはどこ?』を挙げている。ご主人は文芸評論家で武蔵野音楽大学教授の武藤康史氏。

**【学歴など】**お茶の水女子大学文教育学部国文学科を 1990 年に卒業。同大学助手などを経て、2005 年に同志社大学文学部国文学科助教授、2007 年同大学文学部国文学科教授、2015 年より文学部学部長、2017 年から副学長に選ばれ 3 年間様々な経験を。同年から教育支援機構長も務め、2020 年 4 月から同志社大学長に。

**【女性学長について】**この質問にはいつも次のように答えておられる。「初の女性学長として注目していただくことはありがたいのですが、「女性学長」が大きな話題にならないような時代に早くなって欲しい。それが望ましい社会だからです。」

**【ダイバーシティ】**世界は一人ひとりの人間で成り立っており、その個々が尊重される社会がダイバーシティである。そのことを深く理解させることが何よりも重要だと考えている。

**【大 学】** 大学は教育機関なので、教育が一番大事だと捉えている。学生が互いに多様性を認め合い、より良い共存の在り方を創り上げていく、異なる価値観を持つ人々と融合しながらこれまで以上の社会を生み出していくという生き方が理想だということを全ての学生が納得できるまで教えなければならない。

**【留学生との交流】** 同志社大学は、留学生をさらに増やしていきたいと考えている。ただし、留学生と日本の学生が固まらず、文化や考え方の異なる相手と向かい合い、率直に意見を交わし、新たな刺激を受け、貴重な学びを得て欲しい。世界の多様性を実感し、認め合う絶好の機会が日々のキャンパスにあるのだから積極的に活かすべきである。

**【EU キャンパス】** ドイツのテュービンゲン大学内に 2017 年に開設した。これは同志社大学とドイツをはじめヨーロッパ諸国をつなぐ新拠点。新島襄が欧州の教育機関を視察し、最も注目したのがドイツ。この拠点を通じて新島襄が掲げた愛人主義に基づく「国際主義」を具現化し、その伸展を図ることが目的である。また、「アジアの中の日本」という観点からアジアも視野に入れていく。

**【ジェンダー】**「男女共同参画推進室」を発展的に捉えた「ダイバーシティ推進室」を設置し、新たな対応が行える組織を創設したい。色々なジェンダーに関する相談に即応する特化した窓口も必要だと考えている。

**【文理融合】** 私の研究分野でも、例えば「崩し字」が AI で読めることが話題になったり古い史料の紙の年代を正確に測定できるようになってきた。これから各研究においても文理融合はさらに重要になると実感している。

**【シンギュラリティ】**「シンギュラリティは（技術的特異点）と訳されている。

それは、AI などの技術が、人間より賢い知能を生み出す事が可能になる時点を指す言葉。米国の数学者ヴァーナー・ヴィンジにより最初に広められ、人工知能研究の権威であるレイ・カーツワイル博士も提唱する概念。」(<https://ledge.ai/singularity/>より)

この問題に象徴されるように、テクノロジーの急激な進化がもたらす「漠然とした不

安」を多くの人々が感じている。科学の発展と人類の真の幸福というテーマについては哲学的な思考や倫理的な考察などが不可欠であり、最先端の科学を誰にでも分かり易く説明するためには、「言葉の力」もこれまで以上に重視すべきである。

**【言葉の力】** 国語力を高めるためには、やはり様々な分野の本を読むこと。

論理的な著述も文学的な著作もできる限り数多く読むことが必要。これが「多様性の理解」にも繋がり、「考える力」を養うのにも必ず役立つ。これからの国際社会で活躍するためには、卓越したコミュニケーション力が求められるが、その前提になるのも「的確に理解し、深く思考できる」能力である。

**【同志社大学新島塾】** 次の時代を担う人物を育成するために、新たに「同志社大学新島塾」を開塾した。学問分野の専門性を高めるだけでなく、リーダーシップとフォロワーシップを兼ね備えた逸材の養成を目指している。新島襄の志を受け継ぐ次代のリーダーを輩出したい。幕末に鎖国の禁を犯して渡米し、日本の未来を切り拓くために奔走した新島襄に続く有為の人物が生まれることを期待している。

**【学長としての志】** 実業界での多様性はイノベーションが第一の目的になりがちだが、多様性とは本来「利他的」なものだと私は考えている。そのような意味での多様性と寛容さを身につけた人間的に際立つ学生を育成する大学をさらに深化させ、発展させたい。これが学長としての志であります。

**【学生へのメッセージ】** 学生諸氏は、大学という多様な出会いの場で、相手の心を見詰め、深く理解し、受け入れることの大切さを学んで欲しい。また、解決すべき課題を自ら見出し、物事の本質を見極める知力を鍛えてください。

その前提として重要なのは、「解」は一つではないということ。考えるプロセスを重視し、その過程で複合的な視点と柔軟な発想を培っていただきたいと願っています。■

**感想 1.** 「自分で課題を設定し考え抜き行動する」この基本を作るのが大学である。リベラルアーツの土台がないとマッドサイエンティストや薄っぺらな拝金主義者が生まれる。

山田厚史氏（1971年法学部卒・ジャーナリスト）

**感想 2.** 母校は着実に進化している。我々OBOGは、そこで学んだ卒業生に追い抜かれるだろう。新たな学びを継続していかねばならない。

（1960年文学部卒）